

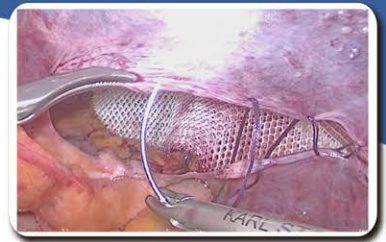
TAPP用腹膜縫合糸

特殊曲率の針形状とループ糸を持つブレード合成吸収糸を用いた方法



Dr. s Voice

東北大学病院 総合外科
特任助教
土屋 亮裕



製品特長

監修) 総合外科 講師 西條 文人 先生
総合外科 講師 田中 直樹 先生

内視鏡下単径ヘルニア修復術は広く普及しており、日本内視鏡外科学会のアンケート調査によれば2019年は全単径ヘルニア手術中54%が内視鏡下に施行されていました。また、内視鏡下手術の内訳では経腹的アプローチ(Trans-abdominal pre-peritoneal approach: TAPP)が79%を占めており、その件数は今後益々増加していくものと思われます。一方、TAPPではメッシュ留置後に腹膜を縫合閉鎖する必要があり、鏡視下の縫合結紮手技にストレスを感じる先生も少なくないのではないのでしょうか。今回、鏡視下の腹膜縫合をより簡便に行えるよう考案されたTAPP用腹膜縫合糸「クロスソーブ・ループ」をご紹介します。本製品は以下の特徴を有しています。

特徴 1

糸がループ形状となっており、縫合始点では腹膜を刺通した後にループに通すことで固定され結紮が不要となります。また、終点ではループ糸の片方を切離した後にもう一度腹膜を刺通させ、それぞれの糸を結紮することで縫合が完成します。

特徴 2 図 1、図 2

一定の針長を確保しつつ曲率を緩やかにすることで、5mmポートから挿入できる利便性と縫合の際の取り回しの良さを両立しています。

近年では鏡視下手術における様々なシーンで有棘縫合糸の使用が増えており、TAPPにおいても有棘縫合糸を用いることで結紮手技をなくすことはできますが、コストの問題は小さくありません。反対にコストを重視した場合には、1本の針糸を用いて最後に一つ手前のループと結紮するいわゆる「ニコイチ」の手法がとられることが多いと思いますが、難しい場合にアンカーとしてもう1本の針糸を使用するシーンもあるのではないのでしょうか。

今回のループ針を用いることで、まず縫合始点での結紮が不要となり、終点では別のアンカー糸を使用することなく通常通りの感覚で結紮することができます。

製品の価格も抑えられており、縫合手技の簡便化と低コストを両立させた優れた製品だと思います。



図 1 特殊針5mmトロッカー通過時画像



上: 弱々彎

下: 特殊曲率針

商品内容	商品コード	標準価格
4-0 針長 22 mm 弱々彎 丸針 ブレード合成吸収ループ糸	T22CV04NN-W22	¥ 15,000
4-0 針長 20 mm 特殊曲率針 丸針 ブレード合成吸収ループ糸	T20CV04I-W22	¥ 15,000

1) 1箱12本入。 2) 全て滅菌済です。 3) 表示価格は税抜き価格です。



地域未来牽引企業



株式会社ベアー・メディック

<http://www.bearmedic.co.jp>
info@bearmedic.co.jp



本 社 工 場 〒319-3526 茨城県久慈郡大子町大子1361
TEL: 0295-72-1811 FAX: 0295-72-4157

東京営業所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ベアービル
TEL: 03-3818-4041 FAX: 03-3818-4042

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7-1-26 オリエンタル新大阪ビル702号
TEL: 06-6732-9550 FAX: 06-6732-9552

